

研究課題名	【演題番号 16】 Food protein induced enterocolitis syndrome 診断における血清 TARC 値の有用性に関する研究
フリガナ	ハマノ ショウ
代表者名	濱野 翔
所属機関（機関名） （役職名）	杏林大学医学部小児科学教室 任期助教
本助成金による発表 論文，学会発表	2023 年日本小児アレルギー学会（予定）

研究結果要約

食物蛋白誘発胃腸症（Food protein induced enterocolitis syndrome : FPIES）は原因食物摂取後に数時間してから嘔吐や活気不良を呈する疾患であり、近年国内外で報告数が急増している。FPIES は症状が非特異的であり、診断に有用なバイオマーカーがないため、その診断は難渋し、他疾患鑑別のために過剰な検査がなされることも多い。本研究は FPIES 診断のためのバイオマーカーを探索することを目的とした。方法は食物経口負荷試験で診断された FPIES 群と感染性胃腸炎や腸重積症といった疾患により嘔吐を呈した非 FPIES 群の嘔吐出現前後のサイトカイン推移を比較検討した。結果は FPIES 群 12 例（月齢中央値 16 か月）、非 FPIES 群 12 例（月齢中央値 25 か月）であり、非 FPIES 群は感染性胃腸炎 7 例（ノロウイルス 6 例、アデノウイルス 1 例）、腸重積症 7 例であった（一部重複例あり）。嘔吐 4 時間後では IL-8(p=0.0029)、TNF- α (p=0.03) が FPIES 群で高く、嘔吐 24 時間後では TARC(p<0.0001) が FPIES 群で高値であった。またアトピー性皮膚炎患者で TARC と同様に上昇する MDC は FPIES では上昇しなかった。この結果より、嘔吐 4 時間後は IL-8 が、24 時間後は TARC が FPIES の診断バイオマーカーになると考えられる。